



身近な食の問題、 みんなで繋がり食品ロス削減

当社を含むりそなグループは、社会とグループの持続的成長を目指した「レゾナンス・モデルの確立 (Resonance: 「共鳴」)」を基本方針とし、お客さまのこまごごと、社会課題を起点に、従来の銀行の常識や枠組みにとらわれることなく、新しい発想、幅広いつながりが育む様々な「共鳴」を通じて、お客さまに新たな価値を提供してまいります。

当社は、創業来変わらぬ目指す姿である『埼玉県の皆さまに信頼され、地元埼玉とともに発展する銀行』の実現に向け、地域・お客さまの暮らしや事業の将来にわたる身近で頼りがいのあるパートナーとしての存在価値の発揮に、役職員一丸となって挑戦してまいります。



事業紹介

りそなグループは、SDGsへの取組と経営戦略を統合したSDGs経営を実践し、環境・社会課題の解決に取り組んでいます。2018年11月には、金融サービスを通じた活力あふれる地域社会を実現していくためのコミットメント(約束)として、「2030年SDGs達成に向けたコミットメント (Resona Sustainability Challenge 2030)」を制定しました。

地域「地域経済の活性化」

- 1-1 環境・社会課題をテーマとした建設的な対話等により、お客さまとともに持続可能な社会の実現を目指します。
- 1-2 企業のスタートアップ支援や成長支援、社会インフラの効率運営のサポート等を通じて、地域経済の活性化、暮らしやすい街づくりに貢献します。
- 1-3 誰もがいつでもどこでも簡単に利用できる、先進的な金融サービスの提供を通じて、社会や暮らしの利便性向上に貢献します。

少子高齢化

「少子高齢化に起因する将来不安の解消」

- 2-1 金融コンサルティング、金融経済教育等の金融リテラシー向上の取組を通じて、将来に向けた資産の形成、承継をサポートし、生涯にわたる生活の質の向上に貢献します。

環境「地球温暖化・気候変動への対応」

- 3-1 再生可能エネルギーの利用促進、温室効果ガス排出量の削減等、社会全体の環境負荷低減に積極的に取組、低炭素・循環型社会の実現を目指します。

人権「ダイバーシティ&インクルージョン」

- 4-1 人権や多様性を尊重し、誰もが仕事も生活も充実させ自分らしく活躍できる社会づくりに貢献します。

食品ロス削減のために

「フードドライブ」を実施

当社ではSDGsに関連する金融商品のご提供に加え、従業員がボランティア活動に取り組んでいます。

騎西支店では、取扱うSDGs関連商品についてお客さまに知っていただくため、支店内に案内ディスプレイを展示しています。地域で子どもの支援活動をされているお客さまが展示をご覧になり、子ども支援への協力についてお話ししたことをきっかけに、ボランティア活動としてフードドライブを行うこととなりました。

実施にあたり、従業員の認識共有を図るため、お客さまを講師に迎えて子どもの支援活動や食品ロスについての勉強会も実施しました。そのうえで、提供する先のことを考え「こんなものがあると助かるかな」と相談しながら、家庭で眠る食品を従業員から募りました。

集まった食品を寄贈するにあたり、今回の活動をより広く知っていただくため、贈呈式も開催しました。各種メディアでも取り上げていただき、予想以上の反響をいただいております。



株式会社 埼玉りそな銀行 騎西支店からのメッセージ

地域金融機関は、地域の多くの事業者や個人のお客さまとお取引いただいております。今回の取組についても、当支店で集められる食品には限りがありますが、取組そのものを発信することで、お取引先などの目に留まり、波及効果と呼ぶことができると考えています。

実際に、お客さまから「SDGsの取り組みや子どもの支援活動をやってみたいけれど、何をすればよいかわからない」といった相談も寄せられるようになりました。そうしたお客さまを、今回の取組を通じてつながった団体さまへおつなぎすることもあります。

地域金融機関は、地域とともに発展します。今後も、埼玉りそな銀行は道徳銀行として地域のお客さまにこまごごとを相談していただける身近で頼りがいのあるパートナーであり続けたいと考えています。